スキー場に〝三池売店〟を
全遞長野地区の守る会

各地の「三池を守る会」は三池の火を消すな地味な活動をたくましくつづけている。カンパを送ったり、オルグを出したりわれわれは全く感謝の気持ちでこの活動を受けとっている。

全遞長野地区三池を守る会では寒風の中にスキー場にテントをはり「三池売店」をひらきカンパを呼びかけ、集った二、〇〇〇円をこのほど組合に送ってきた。

さいきんの活動とともに激励の手紙がつぎのように寄せられている

△　△　△

前略　三池労働組合、主婦会のみなさん、お元気ですか。雪に埋もれたこの信濃路にも春闘によって、春の鼓動が切つておとされようとしています。

私たち全遞長野地区には、現在十支部にわたって「三池を守る会」が結成されています。いずれも明日を背負う青年、婦人部員が主力をなしており、五百名をこえ、地域、職場でいまなお三池の旗を全遞の旗とともに守りぬいております。

三池のみなさん方が身をもって示した、何ものにも負けずあらゆる風雪に耐えてゆくあの闘いの姿こそ、明日に生きる私たち労働者の真の姿だと思います。

〃真実は闘いのなかで語られ、働く者の友情は闘いのなかで培かわれてゆく〃

私たち全遞労働者は、みなさん方が血と涙をもつて闘いぬいた三池闘争の教訓と意義を、私たち自身のものとして受けとめ、こんどとも力強く闘いぬく覚悟です。

きょうも雪の中、私たちの同志が建くミサイル基地化反対闘争でたたかつている新島に向け、支援オルグのため長野駅から出発しました。その時、見送りに来た人の中から、離ということなくうたわれたのがみなさん方が作られた〃闘いはここから〃の歌なのです。いま県下でもっとも労働者に親しまれ愛唱されている労働歌なのです。

私たち全遞労働者は、三池を守る会員を中心にして、三月の闘いの中では大きく三池闘争について再び街頭進出を行ない、県民に訴えようと計画しています

「労働組合がある限り闘いはつづく、闘いがつづく限り三池の火は決して消さない」これが全遞長野地区労働者の合言葉です

同封して四枚の写真とカンパ金を送ります。

過日一月十五、十六の両日総評主催によるスキー祭が菅平で開催されました。東京から特別仕立列車で参加した仲間五百名と地元労組員五百名をこえる千名で、さすが広大をほこるスキー場も赤歌と総評のゼッケンで埋めつくされました。

私たち三池を守る会では〃楽しみつつも、三池の仲間を忘れるな〃と、二日間寒風にも負けず三池売店を開き二千円の利益金を得ました。二日間とも押すなおすなの盛況で大好評でした。

ささやかなカンパですがお受け取り下さい。では健闘を切に祈ります。

一九六一年一月二十七日

全遞長野地区三池を守る会

三池労働組合
三池主婦会　殿

スキー場に店開きした三池売店

寒風をついて大牟田を出発（35・2・8）

拝啓　永い間ごぶさたいたしております。組合員ならびに主婦会の皆様方にはお変りはございませんか　私たちもおかげさまで頑健に訓練には参加いたしておりますゆえ、他事ながらご放念下さい。永い間の闘い、その上、会社の悪らつなる差別行為と闘い、組織強化のためにがんばつておられることを考える時たえず感謝のほかございません。千二百名の私たちを守り、権利を勝ちとるために、ともに闘いつづけた皆さま、三池のことは当地の訓練所にいる者は一日たりとも忘れることはできません私たちも、三池出身という誇りをもつて、三池労組の名をけがすことなく、三池支援の強化と

三池を忘れない
大阪職業訓練所の三池出身者から

仲間が一人でも多く、ばやく就職できるように微力ですが、あらゆる方法で手をのばしております　現在ここには、一年六カ月の生徒で六、七百名おります　毎朝九時の朝礼から始まり、四時まで学科と実習を教育されております　私の、熔接工科でも百二十名ぐらいの生徒が電気、ガス両熔接の基本から応用まで行なわれています

私たちも入所いらい今日で十日ですが、ぜんぜん知らなかつた者が、ガスで鉄板を切り、また接ぎ合わせることが下手ではありますが、できるようになりました。

電工科は、全員就職先（近畿電気）が決定したとのことです。寮生活は苦しく、水は大牟田より冷たく、その水で洗たくから掃除をし、食事も二夕品ぐらいです。だが、再出発して行くために辛棒し、安定職場に入るために、がんばつております。

皆さまも苦しいでしょう。台所を守つておられる主婦の皆さまも多大な負担で、苦しい家計でしょうが、どうか再出発だという決意でがんばりぬいて下さい。

三池の皆さまが強くなることが私たちが強くなることであり、組合が強くなり労働者全体がしあわせになることだと思います　春期闘争も来ております。私たちも、いま闘われている平和闘争はどうなつているだろうかと心配いたしております。どうか保守自民党の手先となつている脱落議員とニイ公にとどめを刺して下さい。

こんど多くの苦難な闘争が来ると思いますが、組織を守り、執行部を中心にホツバー決戦時の気持ちを想起しながらがんばつて下さい、おねがいいたします

さいごに、今日当所にきた仲間の話では、重大災害が起きていると聞いております。どうか十二分に保安に注意され、健全なからだでお働き下さることを祈つています。

なお、主婦の皆さま、現在当地方にも悪質なかぜが流行しています。とくに子供さん方にご留意下さるようおねがい申しあげます。

組合長以下全組合員、家族の皆さまのおしあわせとご健康を祈ります。

平和闘争の吉報をお待ちいたします。乱筆にてご一報まで。

二月七日

大阪訓練所三池出身同志
代表　末次益蔵

組合員・主婦会のみなさまへ

三池闘争は国際連帯を強めた
ソ連炭鉱代表団が来山

先月三十日の中国代表団の来山に引きつづき、こんどはソ連炭鉱代表三名と通訳一名の代表団が十一日に来山し、私たちと歓談した

あと、三時の三池港発の渡海船で島原に向かった。

（団長）
ウラジチエンコ・イワン・マクシモヴイツチ氏（三七才）
ーソ連邦炭鉱労働組合中央委員会議長ー

（団員）
チエルニエフ・ミハエル・ペトロヴイツチ氏（三九才）
ー樺太炭鉱地区労組委員長ー
カマロフ・ウラジミル・グリゴリエヴイツチ氏（二六才）
ーマキエフカ炭鉱専任先山ー

（通訳）
クズネツオフ・ユリト・ドミナリヴイツチ氏
ーモスクワ国際大学通訳ー

到着後ただちに、本部大会議室で座談会をもつた。

宮川組合長の歓迎の挨拶につづいてイワン・マクシモヴイチ団長は大要つぎのようなメツセージを私たちにおくつた。

ソ連の炭鉱労働者は、三池炭鉱労働者の勇敢なたたかいをよく知つています。

三池の労働者が示した今次闘争は、プロレタリア連帯の旗印になつた感があります。

久保さんの死という悲痛な犠牲がありましたが、反独占闘争を有効にするためには、より高度な労働者の統一が必要だと考えられます。

ソ連にも労働者のたたかいが、七カ年計画の遂行という形で推進されています。いま、坑内労働は六時間になり、ようやく社会主義社会より共産主義社会へ移行しつつありますが、そのためにもソ連邦には「平和」が絶対に必要だということがわかつていただけると思います。

日・ソ友好をさらに強め、両国の炭鉱労働者の名で連帯を強化して、こんどのお互いの闘争をより前進させたい。

そのゆえ、質疑応答が約三十分にわたつて行なわれたが、代表団の方から、一、二〇〇名の仲間たちの現状について極めて熱心な質問があり、三池闘争についての海をこえたあたたかい同志愛が感じられた。

ソ連邦の三二〇万人の炭鉱労働者の災害や賃金について興味あるはなしがあつたが、時間不足のため十分でなかつたので、三池よりの代表団（永田、甲斐、南場の三氏）の報告にまつことにしたい。

あれから一年（10）
三池を守る会
各地区で続々と結成

第二十四回炭労臨時大会は、三池闘争の支援と決意を固める意味で、福岡市で二月十五日からひらかれた。会社や御用団体である再建運動本部などは、福岡市まで出向き、必死になつて妨害作戦に出たが、大会はこれらの妨害をはねのけ、三池と三瀬への六〇〇円カンパを決定したほか、安保改定阻止、安保体制打破のたたかいはもちろん、首切り合理化反対、賃上げ、保安の完全獲得などのたたかいをすすめる方針をきめ、たたかう炭労の団結をしめした。

職力な後押しとなつてたたかいをすすめている主婦会では、不当クビ切り合理化、ロックアウトに主婦の怒りを結集する総決起大会を二月十四日午前十時から笹林公園でひらいた。この大会には遠い北海道など日本全国からかけつけた炭婦協の仲間をはじめ、地元の関連産業各単産の主婦、八幡製鉄労組の主婦協議会、電通熊本の若ものなど約三〇〇名と主婦一三、〇〇〇名が結集した。このような主婦たちの決起大会をもつたのは、一二三闘争のときについで二回目であり、大会に集まつた主婦たちは、一万円生活で絶対台所を守りぬくと強く決意をかためた。

△　△　△

一月二十三日鹿児島市を出発した沖縄―東京間の沖縄を返せの国民大行進が二月七日大牟田到着、翌八日に出発した。

安保破棄のたたかいは、一月三十日から再開された第三十四回通常国会とともに、いよいよ高まりをみせ、安保批准阻止の共闘態勢は各地区で強力なものとなり、諸活動をおしすすめ、統一行動も二月二十五日の第十二次に向けて着々と準備されていつた。四月中旬には大規模なストを中核に国民総決起体制を確立することになつた。

△私たちの本だな▽（3）

三池の労働者と共に
（世界三月号）
向坂逸郎著

大牟田出身の向坂さんが、戦後二十四年いらい、わが三池労組ときわめて身近かな関係をむすんだということは、今次闘争における「向坂教室」というマス・コミで天下にしられたが、これは、日経連・石炭経協の分離作戦のあらわれである。

「教室」などという固くるしいものでなく、向坂さんがどんなに三池労働者のことを心配していたかが、この世界三月号を一読すればあきらかだ。

昭和二十四年、市役所前の東本願寺で始まつた「本所社研」から、もう十二年、向坂さんは、三池労組が現在よりもつとヒドイ蔵制の圧迫に苦がみじた時代でも、あの一二三闘争で拒否者の復職を肩を抱きあつてられし涙を流し合つたときでも、変らぬ表情で眼鏡を光らせながら、コツコツと三池を訪れ、労働者としての正しい道が人間全体の「解放闘争」といかに直結しているかを話しつづけられたわけだが、今次の三池闘争ではとくにご心配のかけどおしだつた

七月のあつせん申入れの受諾直後に、士気沈滞を心配してのホツパー座談の講座では、悪性の下痢をおして一週間ちかくもがんばられたあげく、とうとう床につかれたし、九月の「あつせん受諾」の市民館での中央委員会で十六時間二十分という長い討議をじつと悲痛な表情できき入つておられた姿も目にうかぶようだ。

あまりしられてはいないが、久保博子さんが上京した時も、札幌に行つたときも、奥さんと共に久保さん母子を博多で送り迎えたやさしい思いやりのあるあたたかい向坂さんの一面も忘れられない。

翌するに、三池闘争についての向坂さんの感想は、この三月号の「世界」に凝結している。向坂さんの三池労働者にたいする愛情にみちたきびしい「苦言」は、こんどの発展をねがう者にとつては必読のものがある。

向坂さんのいわれていることは一読して汲みとつてもらしかないが、行間によびかけている「前進」と「団結」は貴重である。われわれはこれを一読することにより、三池のわれわれを案ずる人たちが、各階層にいかに多くいるかをしみじみ考えさせられる。

三池闘争は正しかつたし、一歩後退をみんなの団結で一歩前進にかえることも不可能ではないし、そのために、視野をひろげるためお互いに勉強したいものである。

（雑誌―世界三月号―発売中、一二〇円）

三池を守るタ
尼鉄青婦部が主催

話はすこし古くなるが、尼崎製鉄青婦部では鉄連関西地協事務局、鉄鋼尼崎地区青婦部後援で「三池を守る夕」の集会を尼崎地区青年婦人によびかけ昨年末の十二月十七日ダンスパーティとうたごえの集いを市民体育道場でひらいた。たまたま三池から前田幸太郎さん（三川）が立ち寄つたので、前田さんから三池のそのの事情をみんなが熱心に聞いた。

この集いには尼崎製鉄青婦部ではジュース券を出して整理費としたが、この日に集つた金の中から六千円が早速三池へ送られてきた。